

平成28年10月27日(木)

老球の細道278

老人は大人（たいじん）を目指す

会津バスケットボール協会 室井 富仁

近所の田んぼの周辺を走ったり、歩いたりしているが、今年も稲刈りが終わり鮮やかな黄金色の稲穂は謙虚に消え去り、大好きなコスモスの花も人知れず姿を消した。自分の出番を精一杯演じ、役割を終えたら潔く消え去る。自然の移ろいの時期になると思い出す。

「年年歳歳花相似 歳歳年年人不同」。「ねんねんさいさいはなあいになり さいさいねんねんひとおなじからず」と読む。意味は「花は毎年同じように咲こうとも、それを見ている人は同じではない」ということであるが、本当の意味は、悠久たる自然に対する人間の生命のはかなさ、その無常を表現したものである。唐代の詩人、劉延之（りゅうていし）の『代悲白頭翁（白頭を悲しむ翁に代わって）』と題する七言古詩の有名な一節である。

稲穂を見ながら謙虚さを学び、コスモスに癒されながらジョギング、ウォーキングしながら考える。去年の私より成長できただろうか、目指すべき大人に近づけただろうか。

今日は孫娘の二足立ち記念日である。昨年10月24日突然四つ足から二足で立ち上がった時は、私が初めて倒立ができた時と同じような感動を覚えることができた。今その孫を連れてコンビニにバナナ買いに出かけ、その帰り道公園でブランコや鉄棒遊びをするのが平日夕方のルーティーンになっている。

先日公園に行ったら中学生の男の子達が鉄棒で遊んでいた。前回り、後ろ回り、逆上がり、飛行機飛びなどの技を繰り出していた。私にとっては名刺代わりの技である。それを見ていた孫娘が「爺も！爺も！」と、孫娘の命令は恩師や親の命令の次に絶対である。難なく中学生の技をやり終えた。中学生の「スゲー！」と驚く声が聞こえた。

老人だと思っあまく見られていると思ひ、中学生に「お兄ちゃんたち「蹴上がり（中学生には難度の高い技）」できる？」と質問したら、「どんな技ですか？」ときたので、やめればいいのに模範演技をすることになった。昨年までできたのだがなんと失敗。失敗の言い訳を腰のせいにしたら、中学生は心優しく「すごいですよ。何をしていたのですか？」と聞かれたので、「元高校の体育教員だよ」と正体を明かしてしまった。私の目指す大人のモデル「木枯らし紋次郎」になり切って言えば「いや名乗るほどのものではありません。その辺の老人です」と答え、黙ってその場を立ち去るべきだった。

U-65のカテゴリーに入り、日々「大人（たいじん）3か条」を目指して生きていくことを心がけにしているのに 1か条の「ひけらかせない」失格。狭い世界でひけらかすことほど小人の世界へ。ちなみに二つは、「ケチらない」こと。お金だけではない。何事にも出し惜しみしないで全力投球することである。三つめは、「グチらない」こと。自分自身の実力不足、努力不足を他人のせいしたり、社会、環境のせいにして言い訳がましい愚痴を言わないことである。「グッチ」のバックを持つのは格好いいが、グチ（愚痴）を言うのは、聞いている人に不快感を与えるし格好悪い。愚痴を言っている自分自身を努力、精進から逃避させてしまう。「言い訳は 心を削る カンナかな」。

老人は荒野を目指し、真の大人へまだまだ成長していかなければならない。言わずもがな、人生は短い、さよならだけが人生さ。日々反省、後悔ばかりだが、ひけらかせない、ケチらない、グチらないで毎日を有意義に、元気に生き切りたいものである。